

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101041		
法人名	医療法人 群栄会		
事業所名	グループホーム みずきの家		
所在地	前橋市池端町384番地1		
自己評価作成日	平成22年5月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	管理者はじめ全ての職員は事業所の理念である地域との関わりを大切に考えており、地
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には四季の花々が咲き、菜園での野菜・イチゴ・コンニャク作りや、採れた旬のものでのオヤツ作り等、日々の生活の中で季節感を感じてもらいながら、利用者様のできる力を活かせるような働きかけや関わりを大切にしている。野菜作りを通しての地域の方との交流もあり大切にしている。又病院併設の施設である為、緊急時の対応がスムーズで安心と共に食事面でも管理栄養士の献立によりバランスの良い食事となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は毎日の申し送り時や日々のサービスの提供現場において地域密着型サービスの意義を確認しながら、地元の行事に積極的に参加したり、地域の幼稚園・警察・学校等の関係者の歓送迎会に管理者が出席する等、グループホームの理解を深めながら、地域の人々との交流の機会を大切にしている。利用者の日頃の言動や情報等をしっかり把握し、利用者本位の個別性のある対応を行っている。日々の生活の中で季節感を感じてもらうために、庭に季節の花を植えたり、旬の野菜を献立の中に取り入れて、利用者が心豊かな生活を送れるようにとの心配りが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様と地域の方々との日常的なふれあいを通じ、地域とのつながりを大切にしたい理念を実践している	地域との関わりを盛り込んだ理念を職員全員で確認し、日々のサービスの提供場面や毎朝のミーティング時に時間をかけて話し合い、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、古紙回収の地域活動等に参加している。又散歩等で挨拶を交わしたり、話を する機会が多い	自治会に加入し、地域の行事や古紙回収の地域活動に参加したり、散歩時に言葉を交わし交流を図っている。地域の幼稚園・警察・学校等の関係者の歓送迎会に出席し、地元の人と触れ合う機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での会合やイベントに参加し、その都度ホームを知ってもらい理解を深めてもらえるような働きかけを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出された質問や意見・提案等は その時々で話し合い、サービス向上につながるよう努めている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームからは事業所や利用者の状況・外部評価の結果等を報告している。各委員からの情報や助言・提案等は意見交換をし、サービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市との情報交換や相談等、支援あり	前橋市主催の勉強会に参加したり、運営推進会議の連絡・報告等で連携を取っている。不明な点等は電話で相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設け事業所内での勉強会や話し合いを行い職員の共有認識を図っている	処遇対策委員会を毎月開催し、身体拘束や事故等について話し合っており、共通認識を持っている。職員の見守りや連携等により施錠はしないで自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で、共通の認識を持ち不適切なケアについて話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる方は、現在はいないがいつでも対応できる体制はある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得と同意を得てから対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出された意見や要望等は要望書として掲示し、ミーティング等で話し合い、反映させている	家族等が意見や要望を気軽に話せるよう、日頃から馴染みの関係を作っている。利用者の気持が職員に直接でなく家族を通して伝えられる事もあり、職員会議で話し合い、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議や職員会議・毎日のミーティング等で、日頃から意見や要望を出す機会を設けている	職員会議・施設会議・ミーティング等で職員は気軽に意見や提案を出せる雰囲気が出来ている。管理者は職員個別からも要望等を聞く機会を持つよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、業務区分や勤務区分表を適切に作成し、超過勤務の縮減等を管理している。効率的な業務計画の推進を行い職場環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人ひとりが目標を持ち、モチベーションを高めるよう、施設内外の研修を多く活用し教育体制強化を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互研修等に参加している。他ホームの取り組みを参考にしたり取り入れたりすることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談はご本人よりも家族からの電話や来訪が多く結果本人の困り事よりも家族の主張を聴いているが、利用開始後に本人が困っている事、不安な事を聴く機会を多くとり早い時期に良い信頼関係が作れるようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時又は後日、家族に来居して頂き、より細部に亘っての聞き取りや相談を受けている。家族に来訪して頂き(できれば本人と一緒に)ホーム内を案内し、実際の生活を見て頂きながらお話を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じて可能な限り柔軟な対応が出来るよう努めている。母体病院や老健施設・居宅支援事業所等との連絡体制あり、必要に応じた対応が出来るよう、相談やアドバイスしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力し合いながらの日常生活の中で教えたり、教えられたり、励ましたり、励まされたり、場面、場面での対応をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や変化等、日常の様子を家族に知ってもらう為、きめ細かく伝えるようにしている。食事介助や散歩・買い物と一緒に行ってもらう等、家族と過ごす時間を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人や遠方の家族が訪ねて来たり、身内の家に出かけたりの交流は継続できるよう支援している	遠方の友人や家族、地域に暮らす馴染みの知人等が訪ねてきており、継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でごく自然に協力し合ったり、助け合ったり、できるような声かけや場面作りをしている。席決め時には孤立しないよう配慮もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのったり、情報提供等行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での関わりやコミュニケーションの中から希望や意向を把握できる事もある。言葉や行動から思いを察する努力や家族からの情報をもらいながら把握に努めている	自己の思いを直接表現するのが困難な方が多く、日々の関わりの中での言葉・表情・態度等から思いや意向を把握するように努めている。又、家族や関係者から生活歴や生活習慣等の情報を聞いて対応に繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供となにげない会話の中からも情報を引き出せるよう努め、家族にも来居時には折りにふれ話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し援助していく中で情報を共有しながら把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や看護師・家族等にも意見やアドバイス等を頂き、反映させている	職員・医療関係者等の意見を基に介護計画を作成している。基本的には月1回のモニタリングと3ヶ月1回の見直しをしているが、状況に変化が見られた場合は随時見直して現状に即した介護計画を作っている。	介護計画の作成やモニタリングについても、本人や家族から聞き取った情報を加える等、利用者の視点も併せたアセスメント内容とすることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量・食事量や排泄等は個別にチェック表に記入しながら身体状況の観察を行い、情報共有できるよう図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて出来る限り柔軟に対応している。医療連携体制を活かして、状態に応じての往診や点滴処置、他病院への通院介助等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護受給者がいる為福祉事務所職員と協力しながら支援、消防署協力の火災訓練や運営推進会議には、民生委員さんの出席がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況及び家族等の希望により、対応しており、受診後の服薬や指示等についても支援している	利用者・家族等の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関の受診をした場合は受診内容を電話や家族来訪時に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康面の相談しており、気づきや情報も細かく伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携体制ができており、ホームでの対応可能であればなるべく早く退院し、入院によるダメージを少しでも軽くできるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う内諾書を作成しご家族の意思確認や事業所の方針等についての説明を行っている	重度化した場合に係る対応の指針が作られており、家族に説明している。家族と話し合いを持ち、すでに内諾書をもらっている家族もあり、状況の変化等を見ながら、家族の希望する支援につなげたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し法人との連絡体制は確立されているが全員が実践力を身につけているとは言えない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設病院との協力体制はできており年2回の火災訓練は定期的に行っている。消防署の協力での訓練を実施し指導も頂いている	避難訓練のマニュアルが作成されており、消防署の協力により年に2回併設病院と火災訓練を行っている。災害時における併設病院との協力体制が出来ている。スプリンクラーや火災通報装置も設置済みで、運営推進会議で近隣にも協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で常に誘導時の声掛けや対応等に配慮して行っている。又ミーティング等で折にふれ話し合い、意識向上に努めている	処遇対策委員会で利用者に対する言葉かけ(指示的、命令的なもの)や利用者の尊厳を傷つけるような対応について話し合っている。又、自己決定がしやすいような配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人が納得して行動できるように、その方に応じた声掛けを行い、本人が決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、その日の状態や気持ちを汲み取り、出来る限り個別性のある支援を心掛けて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お肌の手入れをしている方、洋服に自分なりのこだわりを持っている方等、その方に応じて対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や配膳・片付け等、その方のしたい事、できる事を職員と一緒にしている	食材準備・下膳・食器拭き等、利用者は出来ることを職員と一緒にしている。季節の野菜等を取り入れた献立の工夫で食事が楽しめるような配慮も見られる。行事や外食では利用者の好みを取り入れ食事を全職員が利用者と一緒に摂っているが、日常的には職員1人が利用者と食事をしている。	利用者と職員が同じメニューの食事をする事は利用者との関係づくりの点からも大切なことなので、毎日の生活の中でも利用者と全職員と一緒に食事を味わうよう努力して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養士の献立で対応。食事制限のある人、偏食や水分を飲みたがらない人等、その方に応じて対応、食事量や水分量等のチェックは毎食行い摂取量の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けすれば出来る人、誘導や介助が必要な人等職員は把握しており、毎食後その方の力量に応じた支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入、排泄パターンにより誘導を行い、トイレでの排泄の継続や自立に向けての支援をしている	排泄チェック表と水分・食事の摂取量を参考にしながら利用者一人ひとりの状況に合わせて誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分摂取等は日常的に配慮して自然排便できるよう取り組んでいるが、必要に応じて医師と相談し下剤での調整をしている方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4～5回の入浴日の中で希望に応じて入浴できるように支援している。その方に応じて湯温の調節や気の合う人どうしの入浴・入浴剤で温泉気分を楽しむ等の工夫をしている	利用者の希望を聞きながら週に4～5回の入浴支援を行っている。気の合う利用者同士の入浴・柚子湯や菖蒲湯・入浴剤を使用する等、入浴を楽しめるよう工夫している。	これまで週に3回行っていた入浴支援を週に4～5回の対応になった努力が確認できた。利用者の希望やタイミングに合わせての入浴支援をすることが望ましいので更なる努力を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や、夜間の就眠状態の観察を行いながら安眠につながる生活を、支援している。 昼食後の午睡が日課になっている方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から薬の説明を受け、副作用や用法等は理解している。処方変更時や状態変化見られる時の様子観察の強化や記録等に注意して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	蚕の飼育・コンニャク作り・野菜作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。又好きな絵を描いたり、歌を歌ったり、思い思いの時間を過ごし、気分転換を図ったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に天気の良い日には散歩や外気浴をしており、希望に応じて買い物に出かけたりしている。家族と外出し墓参りや温泉に出かけている人もいる	天候や利用者の体調・希望等にに合わせて散歩・買い物・ドライブや古紙回収・ごみ出し等に利用者と一緒に出かけている。屋外でお茶のみをして気分転換やストレス発散の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方、ホームで管理し力量に応じて支払いのサポートをしている方等、その方に応じて対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分ではかけられないが、かけてあげれば会話ができる方、家族からの電話で常に連絡を取り合っている方等、希望に応じて日常的に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節ごとの草花を生けたり、飾りつけ等で季節を感じ楽しめるよう工夫しており、畳敷きのスペースには掘りごたつがある。浴室の窓はくもりガラスを使用し、外から見えないよう配慮している	共有空間には季節の花・観葉植物・利用者の作品等を飾り、食堂からは食事の準備の音や匂いを感じられて家庭的な雰囲気工夫されている。家族の来訪時や利用者同士がゆっくり話の出来る畳敷きのスペースが用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の壁面に写真コーナーがあり、折にふれ楽しめるようにしている。ソファをおき一人になれる場所も確保、畳敷きのスペースも有効活用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家具等馴染みの物の持ち込みは可能であることは伝えている。本人・家族と相談しながら、その方に応じた居室の使い方ができるよう工夫しており、お花や自分で作った作品や絵を飾り楽しむ方もいる	入居時に馴染みの寝具・時計・衣装かけ・思い出の品等を持ち込んだり、手作りの作品や花を飾って個別性のある居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安の原因を探りながら状況に合わせて環境整備に努めている		